

## 胡瓜の接木に現われた斑葉現象について

小原 赴・田中幸孝・畠中 洋・浅井繁利

(福岡県農業試験場園芸分場)

OHARA, T., TANAKA, Y., HATANAKA, H. and ASAI, S.

Chlorosis Phenomena appeared in

Grafting of a Cucumber.

ハウスの周年利用に当つては土壌溶液濃度や土壌病害による生育障害が問題となるので、その対策の一環として実施中の瓜類の接木試験に於て、干瓢砧の胡瓜に原因不明の斑葉現象が現われたので、その原因について検討した。

## 試験方法

- a) 供試品種 砧木：干瓢(丸夕顔)，南瓜(新土佐)  
穂木：日向2号(S<sub>4</sub>)，久留米落合H型，福交1号
- b) 播種期 干瓢1月7日，南瓜1月9日，胡瓜1月13日
- c) 接木期日 1月17日
- d) 肥料 1a 当り成分 N-5.2 kg, P-4.2 kg, K-4.2 kg.  
硫酸，過石，塩加を主に用い，油粕45 kg, 堆肥200 kg を施し接木区は自根区の半量施用した。
- e) 定植期及び苗の大きさ定植3月1日，南瓜砧5~6枚，干瓢砧4~5枚，自根区5~4枚

## 成績及び経過

1. 斑葉現象3月23~24日に干瓢砧の全株の下葉から徐々に上葉へ，症状も初期はネクロシス状に，中，後期はクロロシス状に現われ，症状の激しかった4月下旬までは生長点に近い5~6節の若葉にも小斑点が認められた。試験打切時(6月16日)日向2号，H型は32節，福交1号は36節葉まで斑葉が見られた。隣接の南瓜砧，自根のものに最後まで全く認められなかつた。

## 2. 収量調査

第1表

品 種	項 目	上 物		中 物		下 物		上中物%		上中物W指数
		N	W	N	W	N	W	N	W	
日2 向号 (S <sub>4</sub> )	南 瓜	6.1	913	4.7	482	5.5	436	66.3	76.2	94.8
	干 瓢	4.5	544	4.4	388	4.7	335	65.4	73.6	63.3
	自 根	8.3	987	5.7	483	5.0	365	73.7	80.1	100

久落H 留米合型	南 瓜	8.0	1,137	5.4	525	8.0	710	62.6	70.1	88.5
	干 瓢	4.7	500	4.1	463	4.6	301	65.7	76.2	51.3
	自 根	9.4	1,290	5.7	587	7.1	406	68.0	80.3	100
福1 交号	南 瓜	11.1	1,426	7.1	743	7.8	684	69.5	76.0	97.5
	干 瓢	6.8	954	6.5	755	5.4	335	71.1	83.6	76.8
	自 根	10.8	1,612	6.2	613	7.8	527	68.8	80.8	100

## 3. 生育調査

第2表

品 種	項 目	草 丈	葉 数	節 数	葉の大きさ(横長)		1葉重	葉 重	莖 重
					cm	cm			
日2 向号 (S <sub>4</sub> )	南 瓜	537	31.6	51.1	19.5	17.1	539	485	
	干 瓢	488	23.8	49.2	16.6	11.5	274	360	
	自 根	483	33.4	53.6	15.0	15.6	522	374	
久落H 留米合型	南 瓜	557	29.4	56.6	20.5	16.9	498	446	
	干 瓢	509	26.0	51.8	14.2	9.6	249	348	
	自 根	514	31.0	51.6	17.4	17.3	537	443	
福1 交号	南 瓜	546	27.0	54.4	20.5	18.1	489	470	
	干 瓢	505	26.6	53.2	14.2	15.3	408	380	
	自 根	463	30.3	57.3	17.4	18.7	567	402	

生育中期に根群を調査したところ，干瓢砧の細根に幾らか根傷みが認められたがその原因は明かでない。

## 4. 植物組織の分析結果

第3表

種 類	種 類	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	Ca	Mg
植物組織%	南瓜砧16~18節葉	4.85	0.43	3.98	3.76	0.94
	干瓢砧16~18節葉	3.94	0.41	4.55	3.50	0.73
	自根16~18節葉	5.07	0.34	3.50	3.04	1.06
	干瓢砧23~25節葉	6.21	0.45	4.96	2.26	0.44
植物組織*%	南 瓜	4.42	0.34	6.60	1.93	0.83
	干 瓢	4.56	0.22	5.75	1.01	1.08

\* 試験終了直後に同一土壌を用いて栽培した南瓜及び干瓢の幼植物分析結果。

第4表 浸出液中のCa・Mgの含量

種 類	種 類	Ca	Mg	浸出液量 1株/10h	Ca	Mg
植物汁液 100ml中	南 瓜	0.45	0.05	77.5	0.348	0.038
	干 瓢	0.48	0.04	30.5	0.146	0.012
	自 根	0.48	0.09	42.0	0.201	0.037

以上の点から見て本現象は砧木干瓢の根の養水分吸收に原因するMg欠乏現象と判断される。